# 埼玉県庁　様

令和 8 年度
オフィス改革
窓口改善
新庁舎
Topics

## 多様な働き方を支える、未来の県庁のモデルオフィス



**全景**
ベースワークエリアを中心にミーティングスペースやマグネットスペースをバランスよく配置。多様な働き方を実現するモデルオフィスを構築。



**ベースワークエリア**
デスクの配置方向を変えることで視線の重なりを押さえ、適度な距離を保ちながら集中しやすい執務空間を実現。



**ベースワークエリア**
広い机上面を備えた120度デスクを採用。複数のディスプレイを活用し、比較・確認作業等をスムーズに行える執務環境を実現。

令和 8 年 7 月現在

**プロジェクトの詳細**

| | |
|---|---|
| 改修完了 | ：令和8年7月 |
| 対象面積 | ：約220㎡ |
| 委託業務 | ：北部地域振興交流拠点モデルオフィス整備業務委託 |

オカムラHPでもご覧いただけます

## 概要

埼玉県では、DXの進展を見据え、未来の公共施設の先進モデルを基本理念とする「北部地域振興交流拠点」の整備を進めています。本拠点は、未来の県庁の先行モデルとして位置付けられており、県民にとってより便利で、職員にとって働きやすいオフィスの実現を目指しています。

今回整備したモデルオフィスは、フリーアドレスを基本とし、業務内容に応じて働く場所を自由に選べるABW(Activity Based Working)の考え方を取り入れています。ウェブ会議ブースやミーティングスペース、職員同士の交流を促すマグネットスペースなどを設け、個人で集中して行う作業から複数人での打合せまで、多様な業務に対応できる環境を実現しました。

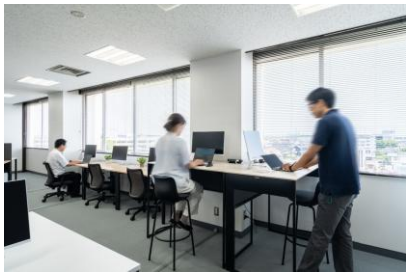
また、レイアウトの可変性を重視し、移動可能な什器を多く導入しています。業務内容や人数に応じて、机、椅子、モニターなどを柔軟に組み合わせることができ、スペースを効率的に活用できます。
さらに、本庁とモデルオフィスをつなぐコミュニケーション環境を構築し、場所にとらわれない柔軟な行政サービスの実現を目指しています。

モデルオフィスは、職員が実際に勤務しながら、新しい働き方や本庁とのコミュニケーションを実践・検証する場でもあります。現場に近い場所で働くことによる業務効率や政策立案への効果、ABWやフリーアドレスの有効性、職員の働きやすさなどについて継続的に調査・分析し、その成果を今後の埼玉県庁の再整備に生かしていきます。

Copyright All right reserved. Okamura

# 埼玉県庁　様

## 多様な働き方を支える、未来の県庁のモデルオフィス



**ベースワークエリア**
窓際に集中作業スペースを配置。ハイタイプ・ロータイプを選択でき、集中力と業務効率の向上につながる作業空間に。



**フルクローズブース**
1人用・2人用のフルクローズのワークブースを配置。個人作業からWeb会議、1on1まで幅広い利用が可能。



**ミーティングスペース/応対エリア**
キャスター付のテーブルとチェアを採用。ネスティングが可能で、用途に応じた柔軟なレイアウト変更に対応。



**ファミレスブース**
少人数でのミーティングや相談に適したファミレスブースを設け、多様な働き方を支援。



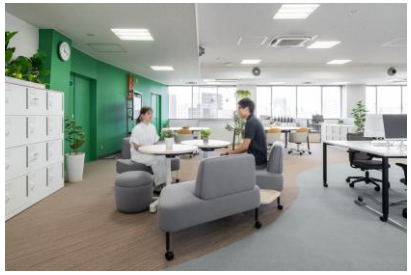
**マグネットスペース**
ベースワークエリアから適度に距離を設け、ゆとりあるテーブルで打ち合わせなどにも使用できるスペース。



**マグネットスペース**
ハイカウンターや打合せテーブルを配置し、偶発的なコミュニケーションを促進する空間を創出。



**カフェカウンター**
休憩や立ち話、短時間の打合せなど、多目的に利用可能。



**ソファ席**
カジュアルなミーティングやリフレッシュに。リラックスした雰囲気で気軽に打ち合わせが行える環境を整備。



**小会議室**
テーブル付きチェアを採用し、使用目的に応じた柔軟なレイアウト変更が可能。



**遠隔コミュニケーションツール**
本庁舎と常時接続することで、離れた場所でも円滑なコミュニケーションを実現。



**モバイルロッカー**
執務室に40名分のモバイルロッカーを配置。差し入れ口つきで、書類の受け渡しにも対応。



**モバイルバッテリー**
コンセントの位置を気にせず、オフィス内のどこでも自由に作業が可能。有事の際の電源確保にも対応。

Copyright All right reserved. OKAMURA